

内服薬と注射薬の重複に対応した例

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は、薬歴を把握して持参薬確認を行うことで、注射薬と持参された内服薬の同効薬重複に気付き、内服薬が中止されたプレアボイドを紹介いたします。

患者背景

▶大動脈弁狭窄症に対する加療目的で、他院より転院して入院された患者
入院 6 か月前に当院で、**リクラスト点滴静注液 5mg** の投与歴あり

【持参薬（他院処方、一部抜粋）】

プレドニン錠 5mg	1 回 8 錠	1 日 1 回	朝食後
アレンドロン酸錠 5mg	1 回 1 錠	1 日 1 回	起床時



Bさん

半年前に、当院でリクラストの投与歴がある。
紹介状からは、プレドニンの内服が始まっているようだが、
ビスホスホネート系薬剤の処方に関する記載はないようだ。

持参薬確認時



Bさん

これが今飲んでいるお薬です。前の病院で新しいお薬(アレンドロン酸)が始まりました。

ありがとうございます。前の病院で骨のお薬が始まっていますね。Bさんは、半年前にも骨のお薬を注射しているようですので、服用を続けてよいか医師に確認しておきますね。



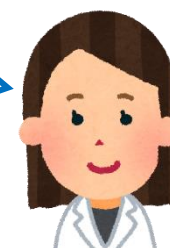
薬剤師

Bさんですが、転院元の病院で、プレドニンの副作用予防目的でアレンドロン酸を開始されているようです。
Bさんは、6か月前にリクラストを投与されており、リクラストの投与間隔は1年間ですので、ビスホスホネート系薬剤の重複投与となっております。特に副作用症状は出ていないようですが、アレンドロン酸の内服は中止されてはいかがでしょうか。



医師

そうでしたか。アレンドロン酸は入院後より中止します。



入院後よりアレンドロン酸錠は中止となり、転院元にも情報提供を行った。
薬歴を把握して持参薬確認を行うことで、当院処方(注射薬)と他院処方(内服薬)での同効薬重複に気付き、適切な薬物療法に貢献できた。

当院薬剤部では、骨吸収抑制薬（ビスホスホネート製剤等）が投与された患者さんへ、以下を配布しております。

- ① 骨吸収抑制薬投与中のシール
 - ② ビスホスホネート系薬剤等の投与日
 - ③ ビスホスホネート系薬剤に係る患者カード
- お薬手帳に貼付用

